

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド

東京都港区東新橋1-9-1

今週の注目材料=米消費者物価指数(CPI)に注目

2026年3月9日

11日に2月の米消費者物価指数（CPI）が発表されます。イラン紛争への警戒感が広がる中、原油高が物価に与える影響も注目されています。統計の対象期間の関係上、今回のイラン紛争の影響が本格的に出るのは次回3月分以降となりますが、紛争激化前の段階で米国の物価動向がどのような状況であったかは、今後の米金融政策を占う上で大きな注目を集めています。

前回1月の米CPIは前年比+2.4%、変動の激しい食品とエネルギーを除いたコア前年比+2.5%と、12月の2.7%、2.6%を下回りました。総合は市場予想の+2.5%も下回り、コアは市場予想と一致しています。

内訳を見ると、エネルギー価格が12月の+2.3%から-0.1%まで大きく低下しました。電気料金などは上昇していますが、ガソリン価格が2か月連続で大きく低下（11月+0.9%、12月-3.4%、1月-7.5%）したことで、エネルギー全体が押し下げられました。食品は+2.9%と12月の+3.1%から若干鈍化。+15.0%と大きく伸びた牛肉などが全体を支えたほか、賃金上昇の影響もあって外食費が+4.0%と高止まり傾向を見せていることも上昇要因となっています。

コア部門は財、サービスともに12月から前年比での伸びが鈍化しました。財は12月の+1.4%に対して1月は1.1%。中古車が12月の+1.6%から-2.0%まで低下し、全体を押し下げました。

サービスは12月の+3.0%に対して+2.9%と小幅に鈍化。住居費が12月の+3.2%から+3.0%に鈍化したことが押し下げ要因となりました。住居費を除くコアサービスは12月と同じ+3.4%となっています。CPI全体を100としたとき35.6%を占めるウェイトの最も高い住居費は、2023年3月の前年比+8.1%をピークに基本的には鈍化傾向にあります。前回、1年2か月ぶりに前月の数字から反発（11月+3.0%、12月+3.2%）を見せ警戒感を誘いましたが、1月は再び鈍化したことで懸念がやや後退しています。その他の項目では、自動車保険が12月の+2.8%から+0.5%まで鈍化する一方、医療サービスが+3.9%（12月+3.5%）、航空運賃が+2.2%（12月-3.4%）と上昇を見せるなど、まちまちの結果となりました。

前月比で見ると、総合は+0.2%と予想の+0.3%を下回り、コアは+0.3%で予想と一致しました。個別項目では輸入依存度の高い家具が12月の-0.4%から+0.7%、家電が-2.6%から+1.3%へと共に伸びており、関税の影響を警戒する動きも一部でありましたが、12月は年末商戦の影響で下げただけという「反動」による自然な動きとの見方が大勢です。

こうした状況を受けて今回の予想ですが、総合が前月比+0.2%（1月+0.2%）、前年比+2.5%（1月+2.4%）、コアが前月比+0.3%（1月+0.3%）、前年比+2.4%（1月+2.5%）となっています。

前回総合を押し下げたガソリン価格は、米エネルギー情報局（EIA）による2月の全米平均価格が1ガロン＝3.039ドルと1月の2.936ドルから3.5%上昇しており、今回は全体を押し上げる見込みです。一方、コアは住居費の鈍化が継続すれば市場予想通りの小幅鈍化が期待されます。関税の影響や、2026年に入り乱高下を見せる貴金属をはじめとする国際商品価格の上昇も懸念材料ですが、直近の輸入物価指数の落ち着きから、今月の影響は限定的と見ています。

先週末の2月米雇用統計は衝撃的な弱い結果となりましたが、ドル売りの動きは一時的で、すぐにドル高円安基調に戻るなど、イラン紛争への警戒感から米指標に対する反応が限定的となっています。ただ、雇用と並んで金融政策に直結する物価については一定の注意が必要です。特にCPIが強めに出た場合は要注意と言えます。先週末の雇用統計に対する反応が鈍かった背景には、紛争に伴う原油価格上昇による物価高への警戒から「米国の早期利下げは難しい」との見方があるためです。物価上昇が紛争前の段階ですでに確認されると、利下げ見送り観測に拍車がかかり、さらなるドル高を招く可能性があります。

その他の注目材料としては、12日に米第4四半期GDP改定値、1月の米個人消費支出（PCE）価格指数、1月の米雇用動態調査（JOLTS）求人件数、3月のミシガン大学消費者信頼感指数速報値などの発表が控えています。

山岡和雅 | ミンカブ・ジ・インフォノイド 編集長

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。